

# 麻生多摩美の森だより

第 10 号 2005 年 9 月 30 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会  
発行責任者 ; 勝田 政吾 編集者 ; 木村 信夫

## 健康の森とその周辺の植生調査が実施される 副会長 長澤

「麻生区市民健康の森」の西側に「多摩美ふれあいの森」、東側に「多摩特別緑地保全地区こもれびの森」があり、3ヶ所が一体となって里山風公園を形成している。

私たちは活動を続けている中で、この森の植生はどのようになっているのか、日頃から気にしているところであった。そうした折、かわさき自然調査団が「市民が考える植生管理」というワークショップを開催してくれることとなり、植生調査が実現した。

### 1. 現地調査の実施

調査団体 : 特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

調査期間 : 平成 17 年度中

調査内容 : 植物 ( 樹木、草 )、鳥、昆虫

その他 : 調査にあたっては各森の会員が協力。調査は、第 1 回 4 月 18 日、第 2 回 5 月 17 日、第 3 回 9 月 13 日に実施された。

### 2. 報告会の開催 植生調査の結果

平成 17 年 9 月 22 日「川崎市青少年科学館」で、植生調査結果の報告と参加者によるグループ別ワークショップが行われた。

開催日 : 平成 17 年 9 月 22 日 13:00 ~ 15:30

場 所 : 青少年科学館 2 階学習室

参加者 : 総数 18 名 ( 調査団 5 名、北部公園事務所 3 名を含む )

報 告 : かわさき自然調査団の岩田事務局長より挨拶と経過報告があり、続いて、

植生が専門の藤間氏より、「第 4 回市民が考える植生管理 “ 麻生区市民健康の森とその周辺を考える ” 」をもとに植生調査報告がなされた。会議資料は、総ページ 22 ページで「緑地保全こもれびの森 4 ヶ所」「ふれあいの森と市民健康の森 6 ヶ所」の調査報告となっている。

### 3. こもれびの森、ふれあいの森の報告

#### (1) こもれびの森 ( 抜粋 )

A 地点は、下草刈り、間伐により特徴的な種が発生。やや乾燥地を考慮した植栽が良いだろう。C 地点は、竹林に下草がない。土壌表面改良を。D 地点は、市内でも 3 番目位に多いほど植物数が豊か、など。

#### (2) ふれあいの森 ( 抜粋 )

被度は高木層 90%、亜高木層 30%、低木層 50% と豊かな森であるが、常緑が多く森が暗い。山桜に倒木の危険がある。

西斜面は表土の浸食が進み、樹木の倒壊が危惧される。たんぼぼ園の復活は難しい。

自然調査団と会員による調査



園路はローム層が露出し滑りやすい。

#### 4. 健康の森（鳥のさえずり公園）の報告

##### (1) 植生の特徴

- ・ 落葉樹の苗は混植され、密度もかなり高く植栽方法は理想的と判断される。
- ・ 草地に植栽した後、施肥もされたもようで、畑地の雑草が地表を覆い、地表の乾燥を防いでいる。
- ・ 下草は年2回以上実施されており、現状が維持される。
- ・ 草本層には落葉樹林の種が次第に侵入してきている。

植栽樹の伸長は正常で枝張りも大きく樹勢はきわめて良好な状態であった。

##### (2) 今後の植生の推移と選択枝

下刈りは植栽後5年間、年2回程度実施されればよい。下草の畑地雑草は次第に衰え、落葉樹が増加するとみられる。植栽した樹木がさらに成長すると、次第に樹木間の競争が起きる。そのときの選択枝として、

成長に差が出てきたときに劣勢な樹木を間引きして伐採する。この方法はスギやヒノキの植栽地で実施されている方法で高木だけが育つ。

劣勢になった樹木の台切りをして萌芽を育てる。高木と亜高木ないしは低木が同時に育つ。

自然競争に任せて、樹木の伐採や間伐はしない。

下草刈りは年1回程度、冬に行う。

樹木の下で種々の活動ができるよう、高木だけを伸ばし、その下は草原状態にする。

考察として、草本層では、畑地草系25種、山野草系17種でまだまだ畑地草が多い。今後は山野草系を増やす方向にしたらどうか。  
<昆虫> 目視法で行った。生田緑地と良く似ている。オオミドリシジミ、ミズイロオ

ナガシジミなど多く、ハナムグリが非常に多い。黒川、柿生と同等であった。

<鳥> 目視法で行った。たくさん鳥のさえずりが聞こえ、生田緑地と同等ではないだろうか。野鳥類は、森と餌がないとこない、草地を刈らずに残すとか落葉を残すとかが必要。

#### 5. ワークショップでの論議

こもれびの森グループと、市民健康の森・ふれあいの森グループとに別れ、調査結果を踏まえ今後森をどのように管理育成すれば良いか、意見交換した。市民健康の森班は8名で、岩田臣生氏の指導で熱心な討論がなされた。おもな論点は、

北側斜面の植栽は、混植よりも常緑樹林を心がけてきたがどうか。外周道路との関係で、暗い林となるが良いのでは。

西側の植生は今後どのように管理すべきか、倒壊しそうな山桜を含め熟慮が必要。

広場の植樹下草はどのように管理すればよいか、傾斜地下までの刈込みは中止して、一部の地帯を残してはどうか。

ウグイスのお宿の篠竹の更新はどうするか。一部分をテスト伐採してはどうか、いや今のまま保持したほうがよく枯れることはない、など意見が白熱した。

等々討論したが時間切れとなり再度ワークショップを開くことになった。時間の制約もあり十分ではなかったものの、真剣な意見交換がなされ、大変有意義であった。

**第2回報告会(まとめの会)** 11月15日(火) 午前10時より、青少年科学館(生田緑地内)で開催。森の植生管理をどう進めるかを考えていくうえで貴重な機会ですので、多くの方々の参加をお願い致します。なお、調査結果の資料閲覧や報告会の内容などお問合せは、幹事までお願いします。

## 森づくり in 北八ヶ岳

勝田佳代子

夏の暑い2日間、北八ヶ岳での森林ボランティアに参加しました。NPO 法人である地球緑化センターが主催するもので、年間を通して全国のおちこちで活動を展開しています。その会員である私は1年に1回位の割合、活動の場所と内容を選んで参加しています。今回は、北八ヶ岳自然休養林（標高 2000m 白駒池近くの国道沿い）での密生しているダケカンバ林の修景除伐です。

お昼頃現地集合。配られたヘルメットをかぶり足ごしらえも本格的で、のこぎりを腰にさした姿は一見本職の作業員風です。営林署の八ヶ岳森林事務所の人による作業説明の後、さっそく班に分かれて作業開始です。伐採の仕方はいつものように、まず倒す方向を決め受け口を作ってから追い口を切るという基本的な方法です。間隔の狭い木や育ちの悪い劣勢木などを伐倒し、それを短く2, 3本に玉切りしてまとめ、枝払いした枝は自然に還すべく地面に置いていきます。

樹木の伐倒は、10m以上育った木を切る心の痛みと、バリバリと音を立ててゆっくりと倒れていく快感とが入り交じり複雑な思いもしますが、健全な林に育てるためと自分に言い聞かせています。

夢中になって木と闘っているうちに作業終了時刻。夕食の後は北八ヶ岳全般についての森林教室です。翌日は6時半起床。8時には作業再開です。昨日の疲れが残っているのか休憩までの時間の長く感じられたこと。11時の作業終了の声にやれやれほっとしました。道具の手入れをしヘルメットも返して閉会式を行ない無事終了しました。短い活動でした

が、いろいろな地域の人と出会い、たつぷりと樹々と触れ合うことができ市民参加の森づくりの輪が少し広がったように思います。



ダケカンバ林の修景除伐

### 西生田小学校・副読本を、 多摩美の森の生きものの写真が飾る

創立130周年記念として10月に発行される副読本『にしいくた』の地域自然の紹介頁に、当会と多摩美みどりの会が、写真提供などで協力しています。

「自然がいっぱい西生田」(2頁)と見返し「四季おりおり」(2頁)を、野草園・関東タンポポ園を中心とした花や虫の写真で飾っていますが、昨年の5年生野外学習のときに話して、子どもたちが感動した「クモが糸を吐き風に乗って大空へ旅立ち」の写真(藤棚の奥で撮影)を載せています。

「でかけてみよう多摩美公園」(2頁)では、公園周辺の風景や収穫祭などの写真とともに、勝田会長の「畑や森の仕事は、人のこころを豊かにしてくれる」との言葉を掲載。資料編では、昨年の植樹祭&収穫祭で発行の「麻生多摩美の森をいどる木の葉写真集」(6頁)掲載し、森に出かけて木々と親しめるようにしています。

今年も、ソバなどの体験学習で小学生が森にきますが、ここを学習の場とした活動のさらなる広がり、子どもたちの地域自然とのつながりの深まりが期待されます。

(木村記)

## 活動後の懇親会は美味!!

大塚伊四郎

9月3日の定例活動は予定通り行なわれ、その後に会費制の懇親会が開催され、極上のカレーとビールで話が弾みました。来月16日が第2回目の予定で、シェフは天ぷらうどんなどを考えている様子です。

「会員諸兄姉の豊富な人生経験を語り合い、情報交換等をすることで活動の広がりや深まりがあるはず」との問題意識が時間をかけて発酵し、カレーパーティーが実現しました。

シェフはグルメの間野洋さん、助っ人は大滝美枝子さんでした。間野さんは仕込みのために前日は「休業」されたとか。永年にわたるレシピ研鑽による本格的インド風の味に、辛党も甘党も「お代わり」で、ナンとチャパティも「完売」となりました。

学童体験農場のソバの若芽が出そろい、その間引き菜のサラダも大変美味でした。

今回はうどんの玉切れがないよう多量の仕込みと大勢の積極的参加を期待します。

### 会員募集中です 貴方も仲間に

緑に包まれて森づくり、親子いっしょの作業や自然体験も楽しい。どなたでも加入できます。年会費1000円。体験参加も歓迎。右記の活動日において下さい。

### テレビ神奈川が取材 10/8に放送

川崎市広報番組の麻生区紹介の中で、市民健康の森が取り上げられ、9/28の活動予備日に、子どもたちも参加しての作業の様子や、インタビューの収録がおこなわれました。放送は10/8(土)10:00から「川崎ホットナビ」。

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

### 連絡・投稿先

木村信夫 044-954-7855

fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp

森 正昭 044-951-1089

BYA15610@nifty.com

## これからの活動予定

副会長 平林謙三

ようやく涼しくなり、ほっと一息。これから収穫の秋が始まります。皆さんこそってお出でください。なお標準の作業時間は10月から10時~12時になります。

- 10月1日(土) 苗木・畑の手入れ、草刈り、清掃等
- 16日(日) 同上。植樹祭準備。作業後にうどん懇親会(会費制)
- 11月4日(金) 麻生区役所保険福祉センター主催のウォーキング中間休憩所として説明会
- 5日(土) サツマイモ・サトイモ収穫、植樹祭準備
- 9日(水) 麦の種まき
- 15日(火) 自然調査団第2回報告会
- 20日(日) 植樹祭・収穫祭
- 12月3日(土) 10:00 樹木観察会  
(ガイド:高橋英氏)
- 18日(日) 苗木・畑の手入れ、草刈り、清掃等
- 1月7日(土) 平成18年の初出。苗木・畑の手入れ、清掃等。
- 15日(日) 苗木・畑の手入れ、清掃等

なお補助作業日は次の通りです。

10月12日、26日、11月9日、23日、12月14日、28日、1月11日、25日

この他に植樹祭の直前には準備のための作業が加わります。

### ご参加ください 05年植樹祭&収穫祭

日時 平成17年11月20日(日)

午前9時~午後1時

(雨天時は23日に延期)

会場 多摩美公園&鳥のさえずり公園

その他 参加費無料(終了後の懇親会は会費500円)

今年度から正式に「川崎市鳥のさえずり公園」となった麻生区市民健康の森と、隣接する多摩美公園で、5回目の植樹祭&収穫祭を行います。桃・栗3年といいますが、そのとおり2年目に植えた栗の木が初めて実を付けました。木々の成長調べ、花の咲く低木の植樹、木の葉スタンプ、畑の秋の実りで芋煮会・焼き芋などを皆で楽しみましょう。終了後に懇親会も予定しています。